

奥田恭正さん「国家賠償」提訴

24 日夜、名古屋の知人から夕方の CBC ニュースの録画を送ってもらった。懐かしき顔が画面一杯に登場していた。名古屋市瑞穂区白龍の奥田恭正さんと弁護団の記者会見だ。国や県とともに「現場監督の男性や建設会社にも 1100 万円の損害賠償を求める訴えを起こす」「同じ人間だから間違えることもある。でも間違えたことに対して、間違えたという謝罪が欲しい」と、奥田さんは語る。



当日のニュース、翌朝の新聞で報道されたが、ここでは朝日新聞名古屋本社版 7 月 25 日朝刊を紹介したい。

名古屋市瑞穂区でのマンション建設の反対運動中に工事監督を突き飛ばしたとして暴行罪に問われ、その後の裁判で無罪判決が確定した男性(61)が 24 日、国と愛知県に計 1100 万円の国家賠償などを求める訴訟を名古屋地裁に起こした。併せて、公判であいまいな証言をした工事監督側に計 1100 万円の賠償を求めて提訴した。提訴したのは、建設現場北側に住む薬剤師の奥田恭正さん。

2016 年に暴行容疑で逮捕・起訴され、今年 2 月の名古屋地裁判決で無罪を言い渡された。判決は、被害を訴えた工事監督の証言について「あいまいで、全面的に信用するには合理的な疑問が残る」とし、防犯カメラの映像からも突き飛ばす行為はなかったと認定。検察側が控訴せず、確定した。

この日、記者会見した奥田さんは、警察や検察が防犯カメラの映像をきちんと確認せずに逮捕・起訴したなどと主張。工事監督の証言については「無実の人間を罪に陥れようとした」と批判した。

じつは 5 月中旬、名古屋で会議があり、その帰りに白龍の 15 階建てマンション近くに行った。名古屋に暮らしていた頃は、白龍近くの「ウェルネスはやし鍼灸院」に通うとき、マンション建設現場を「定点観測」して写真を撮った。数多くのレポートを書き、その多くは「名古屋白龍 住環境を守る会」ホームページにも掲載されている。

奥田さん宅のガレージ壁には、私のレポートも拡大コピーして掲示してある。それを眺めるのも、定点観測のコースだった。あの日ちょうど奥田さんが帰宅され、ご自宅で、しばし奥さまを交え歓談した。奥田夫妻は無罪判決確定後のこと、とりわけ瑞穂警察署や建設会社などから、ひと言たりとも「謝罪」の言葉がないことに、強い怒りを語られた。今回の提訴は、警察・検察に対する奥田さんの怒り、「人権」を問う裁判として、注目していきたい。

(2018 年 7 月 27 日)